

# 平成三年度卒業・修了者の就職状況

広報委員会 富樫一巳

## はじめに

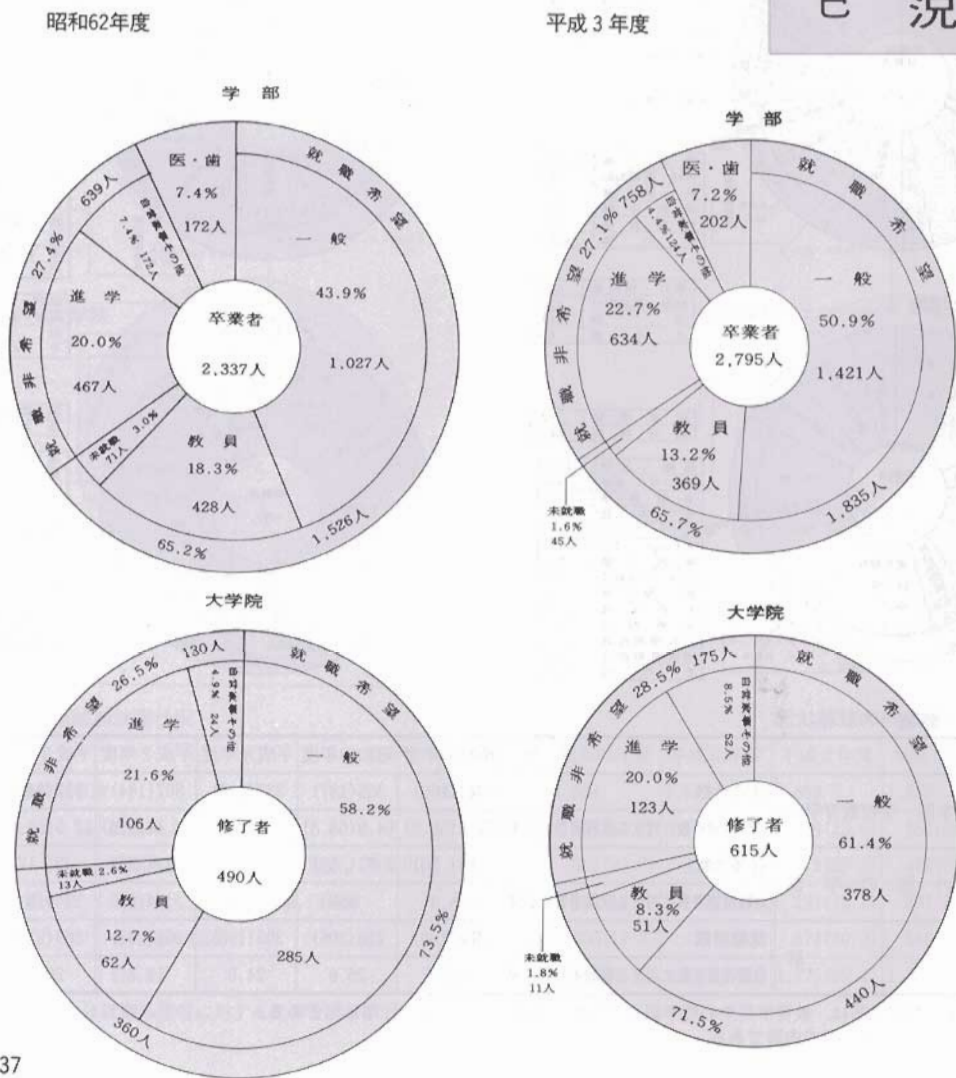
バブル経済が破綻したものの、平成三年度の卒業・修了者の就職状況は良好であった。また、教員への就職者数の減少に歯止めがかかり、国家公務員採用I種およびII種試験合格者数の増加が見られた。平成三年度の就職状況を昭和六十二年や平成二年度の場合と比較しながら、学部卒業者を中心に概観する。

## 進路状況

進学希望者は漸増、教員志望者の減少には歯止め

平成三年度学部卒業者のうち、就職希望者が六五・七%、大学院への進学希望者が二二・七%であった(図一)。

図1 卒業生・修了者(修士課程・博士課程前期)の進路状況



産業別就職状況

進学希望者の割合は年々増加の傾向にあり、昭和六十二年度に比べて三・三ポイント、昨年度に比べて一・八ポイントの増加であった。  
就職希望者のうち、教員への就職者およびその割合は平成二年度までは年々減少していたが、平成三年度には歯止めがかかり、教育学部、学校教育学部では、平成二年度の五二・一％に対して平成三年度には五二・五％であった(表一)。

国家公務員試験合格者数が増加

卒業者の産業別就職者数からいえば、教員を含むサービス業がもっとも多く三八・三％、次いで製造業の二九・六％、公務員の一一・四％であった(図二、図三)。

本学の特徴は、教育関係および公務員への就職者が多いことである。国家公務員採用I種試験合格者は平成二年度が十五人であったが、平成三年度には二十六人となり、大学別合格者数の順位も二十五位から十七位となった。また、国家公務員採用II種試験合格者数も平成二年度の八十六人から平成三

図2 卒業者・修了者(修士課程・博士課程前期)の産業別就職状況

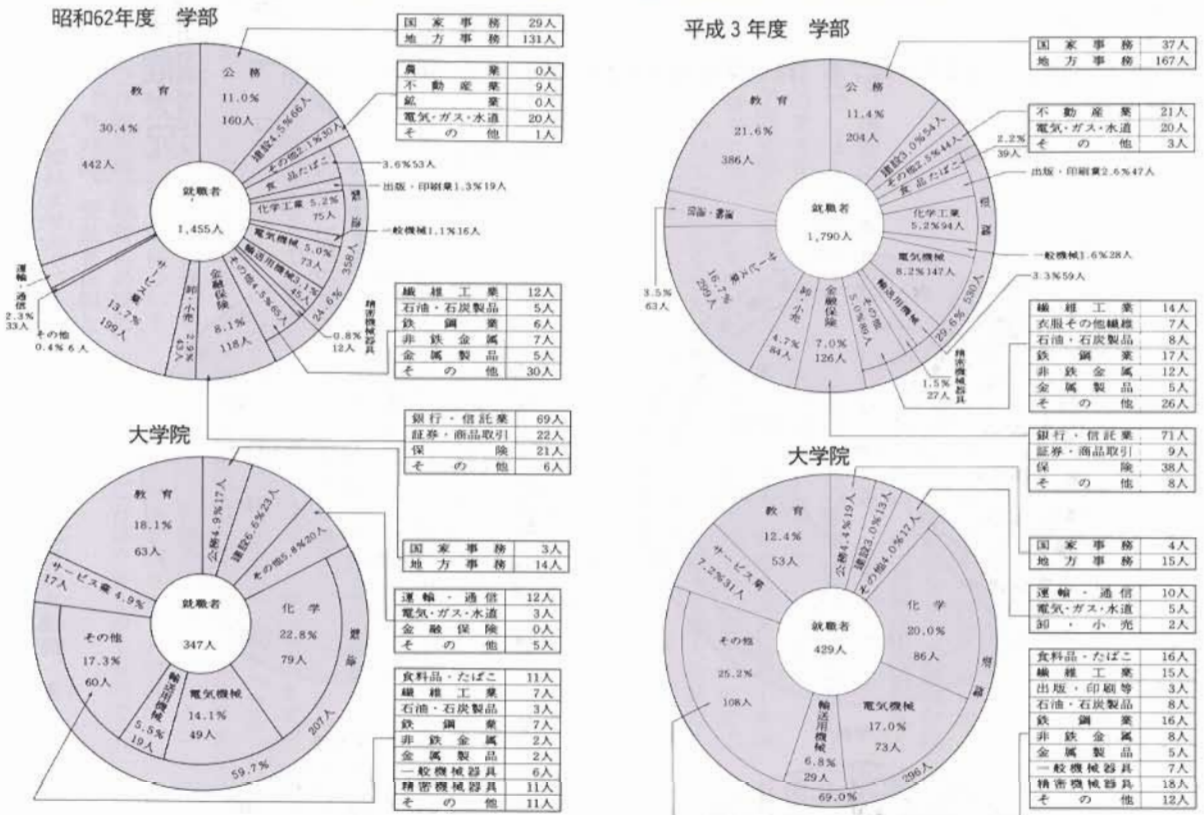


表1 教職への就職状況

		昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度
教育学部・学校教育学部	就職者数	342(160)	355(187)	333(180)	307(184)	327(211)
	就職希望者数に対する就職者数の比率	67.3(56.9)	64.9(58.3)	57.4(55.2)	52.1(49.6)	52.5(50.5)
その他の学部	就職者数	86(20)	71(19)	62(18)	61(23)	42(17)
	就職希望者数に対する就職者数の比率	8.4	6.8	5.8	4.8	3.5
合計	就職者数	428(180)	426(206)	395(198)	368(207)	369(228)
	就職希望者数に対する就職者数の比率	28.0	26.9	24.0	19.8	20.1

注 1) 教育学部は、教育学科や心理学科を含む数である。  
3) ( ) は女子で内数である。

2) 比率は％である。

年度は一一〇人に増加し、大学別合格者数の順位も二十八位から十一位になった。

都道府県別就職状況

県内への就職者数の減少に歯止め

広島県内に就職した卒業者の割合は、昭和六十三年以後平成二年度まで減少の傾向にあったが、平成三年度には減少に歯止めがかかった。関東地区および関西地区への就職者の割合は平成二年度と三年度の間には大きな違いはなかった(表二)。

教員として故郷にUターンした卒業者の割合は、広島県出身者の場合七三・三%、他府県出身者の場合八八・一%であり、昨年度よりそれぞれ六・九、五・七ポイント低下しているが、依然として多い(表三)。一般企業への就職者については、広島県出身者の場合六〇・六%が広島県内の企業に就職したが、入学者のうち広島県出身者の割合の低下と共にその割合は減少する傾向にある。これに対して、他府県出身者の場合二五・七%の卒業者がUターンしており、その年度間の変動は少なかった(表三)。

図3 卒業生・修了者(修士課程・博士課程前期)の職業別就職状況

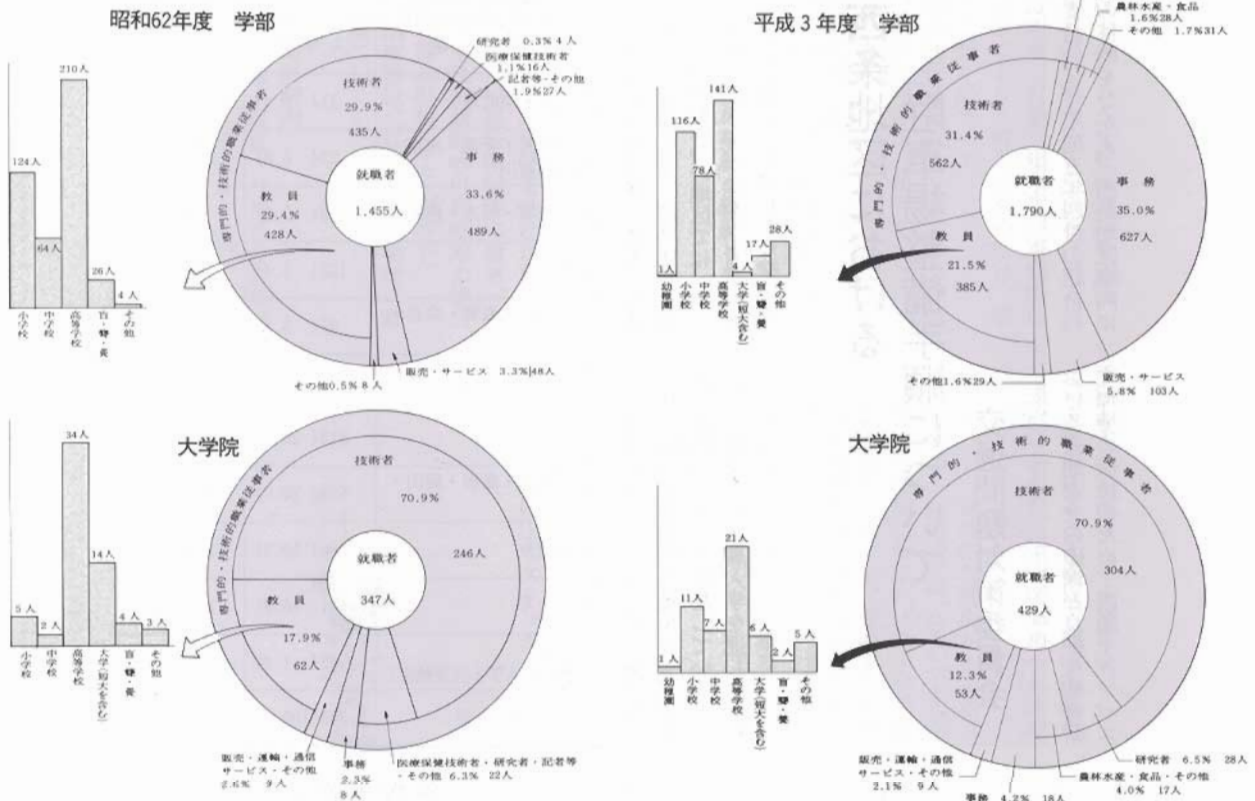


表2 地域別就職状況

[単位 人(%)]

	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	
就職希望者数	1,526	1,584	1,649	1,859	1,835	
就職者数	広島県	513(33.6)	665(42.0)	478(29.0)	439(23.6)	459(25.0)
	関東地区(埼玉, 千葉, 東京, 神奈川)	295(19.3)	352(22.2)	432(26.2)	471(25.3)	472(25.7)
	関西地区(京都, 大阪, 兵庫)	170(11.1)	192(12.1)	191(11.6)	291(15.7)	291(15.9)
	その他の地区	477(31.3)	306(19.3)	514(31.2)	574(30.9)	568(31.0)
	合計	1,455(95.3)	1,515(95.6)	1,615(97.9)	1,775(95.4)	1,790(97.5)

注 ( ) は就職希望者に対する比率を示す。

表3 平成3年度卒業者の就職先と出身地の状況 [単位 人(%)]

出身地	教員就職者		一般企業就職者		合計	
	就職者数	就職者数の内 地元出身者	就職者数	就職者数の内 地元出身者	就職者数	就職者数の内 地元出身者
広島県	101	74(73.3)	358	217(60.6)	459	291(63.4)
他府県	268	236(88.1)	1,063	273(25.7)	1,331	509(38.2)
合計	369	310(84.0)	1,421	490(34.5)	1,790	800(44.7)

広島大学を通しての学生の流れを見ると、平成3年度の卒業者は全国各地から入学しているが、そのうち広島県出身者もつとも多く、中国地区の他県、九州、関西地方からの出身者と続く(表四)。進学・自営等の二七・一〇の卒業者を除くと、地区別の入学者に対する就職者の割合は、関東地区の埼玉、千葉、東京、神奈川の場合二〇

表4 平成3年度卒業者の出身高等学校所在地と就職先の地域的分布 [単位 人(%)]

地域等	入学時	就職時	
北海道・東北地方	11( 0.4)	2( 0.1)	
関東地方	埼玉・千葉・東京・ 神奈川	23( 0.8)	472( 0.1)
	茨城・栃木・群馬	8( 0.3)	4( 16.9)
中部地方	152( 5.4)	85( 3.0)	
関西地方	三重・滋賀・奈良・ 和歌山	97( 3.5)	20( 0.7)
	京都・大阪・兵庫	317( 11.3)	291( 10.4)
中国地方	広島	813( 29.1)	459( 16.4)
	鳥取・島根・岡山・ 山口	579( 20.7)	163( 5.8)
四国地方	286( 10.2)	107( 3.8)	
九州地方	471( 16.9)	175( 6.3)	
国外 (含学士入学・大学検定)	38( 1.4)	12( 0.7)	
合計	2,795(100.0)	1,790(100.0)	

五二%、関西地区の京都、大阪、兵庫では九二%、広島県と中部地区では同じく五六%、そのほかの地区では一八・五〇%であった。大学院進学者が今後どの地区に就職するかわからないが、

広島大学には広島県を中心に関西から九州地区の学生が広く集まり、関東地区のみ増加となって移動していく。人口の極集中が広島大学を通しても起

## 西条地区における 駐車場整備手順について

### 交通問題対策委員会

本委員会は、平成五年四月の総合料  
学部 本委員会は、平成五年四月の総合料  
の移転をひかえ、西条地区構内に

おける交通安全の確保と良好な教育研  
究環境の保持のため、西条キャンパス

交通問題について検討しているところ  
ですが、このたび、駐車場需要と整備  
計画について検討を重ねた結果、今後  
は、平成五年十月頃に実態調査を実施  
し、その結果を踏まえて需要台数の見  
直し及び環境整備計画の進捗状況を考  
慮し、左記の手順により構内交通規制  
等を検討していきたいと思っております。  
構成員の皆様方のご理解とご協力をお  
願いたします。

#### 記

### 駐車場整備手順

一、平成五年四月

学生(新入生) に対しての指導  
的規制

\*「入学の手引」による指導

二、平成五年十月

実態調査

\*駐車需要台数

\*規制効果

\*今後の規制方法

三、平成六年四月

(実態調査結果により実施)

構内通行証の発行(無料)

\*規制方法(教職員・学生別、  
距離等の規制)

\*管理員の配置